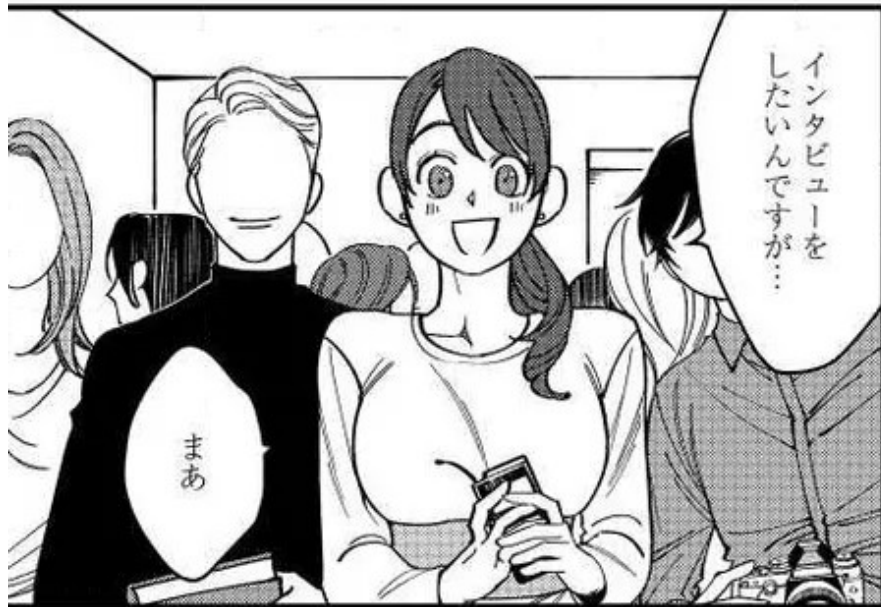
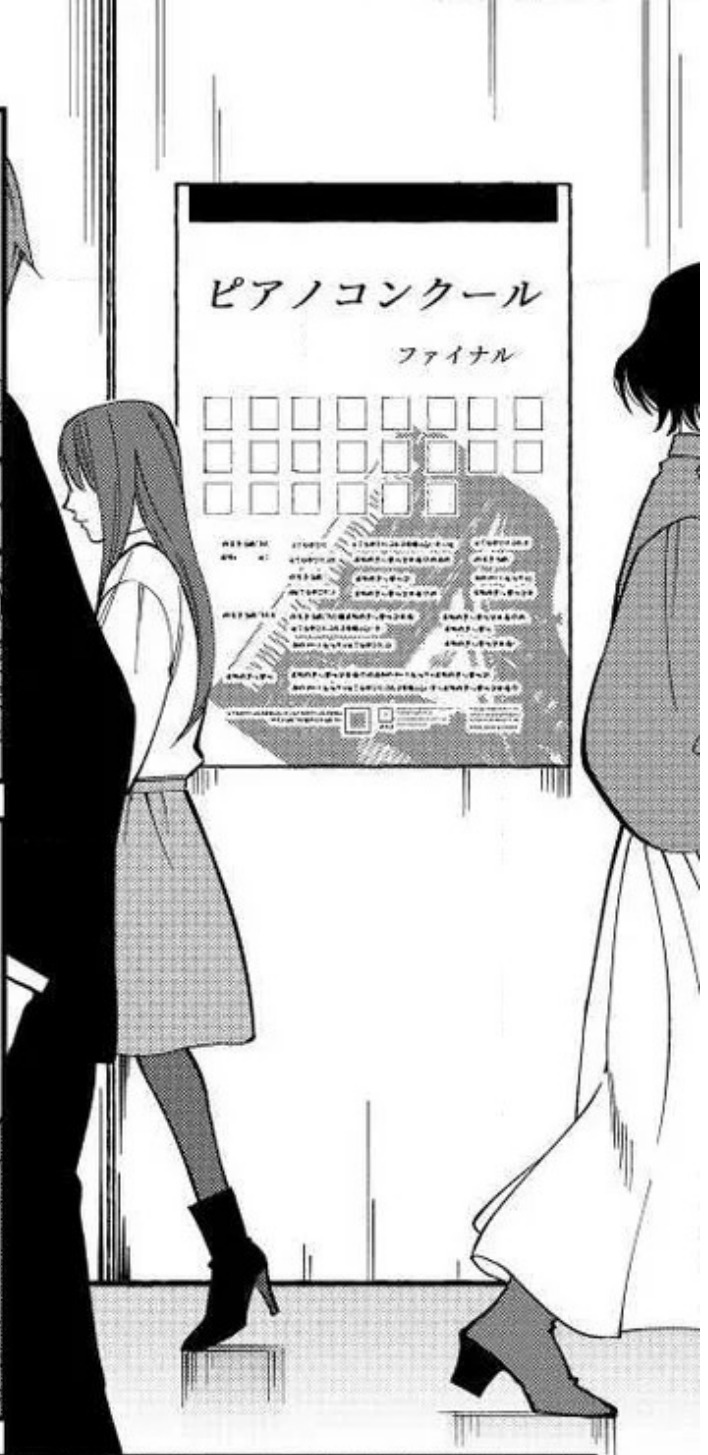




嫉妬は愛を

自虐せらる

なぎさ  
汀えいじ #1  
Jealousy disturbs love.  
Presented by Eizi Nagisa



嫉妬は愛を曇らせる  
第1話  
ななき 汀えいじ





はあー



桐野先輩！









ああ

12歳ってことは  
ハイドンの曲か



何よりも  
僕…

桐野先輩が  
12歳の時に優勝した  
コンクールを見て  
ピアノを始めたんです



新入生？

だとしたら  
遅くに  
始めたんだな

そこそこ  
弾けちゃった  
タイプか？



そ…  
それじゃ

そんなヤツを何度  
相手してきたと  
思ってるんだ



それがマジで  
おちよくり  
来たとか



どうせ媚びて  
名を売りたい  
と思っ  
来たんだろ

だから…

その…



おい!

あ…  
あいつめ!



これで  
失礼します…!

ハア!?



おい!!



クソッ  
花束なんか  
もらっても…



…



まあ  
あんな態度  
取っついて

二度と  
近寄ってくるとか  
ないだろ









この前  
話してみただけと  
感じのいいヤツ  
だったよ

忙しいようなので  
代わりに  
行ってきます

どうせ  
ついでなので

そうか？

可愛がられる  
性格って  
感じかな

彼女が  
いないほうが  
おかしいくらい



彼女がいても  
アタックされそう  
だけど

そんなことより  
ここでタバコを  
吸うなって！



彼女が  
いないのか？

まさか

いないから  
周りに女の子が  
集まってくるんだろ



俺にだけ  
照れ屋の  
フリしてたわけか

スーッ…



なんだ

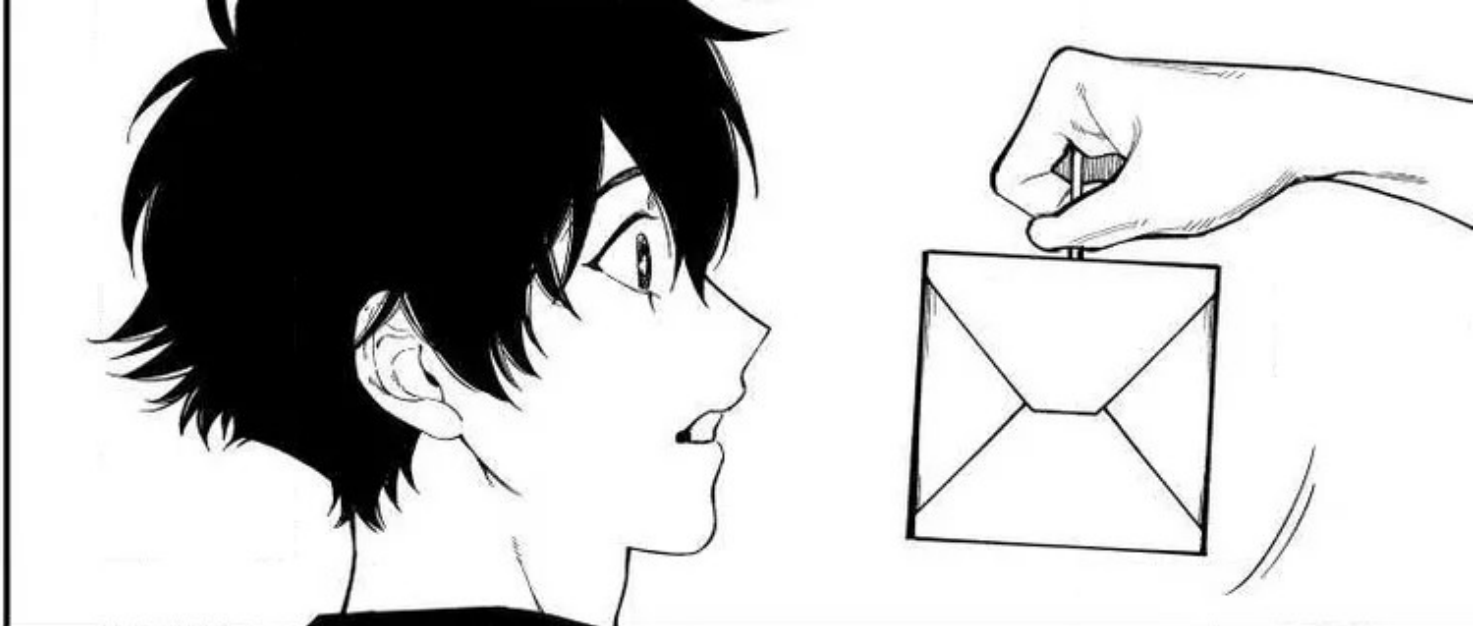
笑顔も  
フツツじゃ  
ねえか



ちよっと  
遊んでやろっか









子供の頃  
それなりに勉強が  
できたんです

自分で言うのも  
なんですが

俺がきっかけで  
ピアノを  
始めたんだって？



両親は  
好きなことをしろって  
言ってくれたけど


勉強以外に  
何もできなくて…

特にやりたいことも  
好きなことも  
欲しいものもない  
変な子供でしたが




母の友人の子が  
ピアノのコンクールに  
参加すると聞いて

母に連れられて  
見に行っただけです



そこで初めて  
知ったんです

桐野先輩を



今まで会った人の中で  
眩しいくらい  
一番輝いていました

クラシックなんて  
全然知らなかったから

先輩が弾いていた曲を  
理解して聞いてみたくて



桐野先輩を  
追っ掛けたくて

初めて  
何かしてみたいと  
思いました

でも知れば知るほど  
先輩がすごい人だって  
ことを知ったんですよ



桐野先輩だけを  
追って  
ここまで来たので…

落ち込んで  
ましたけど


もう敵わないと  
思う度に




先輩は  
僕のすべての  
始まりです



先輩は  
僕の理想なんです



ずっと先輩のような  
ピアニストになりたい  
と思ってました



「ママみたいな  
ピアニストに  
なりたい！」



あー

ピアノを  
愛する気持ちは  
10代で消え失せた

愛してるのは  
ピアノじゃなくて

ただ母さんを愛する  
気持ちじゃないかと  
思ったからだ

純粹な  
芸術家ぶってるん  
じゃねえよ  
ム力つくな

俺のこと  
なんにも  
知らねえくせに

母さんが  
ピアノを愛してたから  
俺も愛してるフリを  
してただけ

サマッ  
知ったかぶり  
すんなよ

ストゥ

ホントに俺が  
ピアノを真剣にやってたら  
今頃日本にいないだろう



そしたら俺を  
追っ掛けてきた  
お前も

わざわざ  
ヨーロッパまでは  
ついて来たかどうか

そうだろ？



俺と  
付き合いた  
い  
んだろ？

正直に言えよ



そしたら  
俺のこと  
もっと  
教えてやる





ありません

そ...

そうじゃ...



ご...

誤解  
されたようなら  
謝ります

すみません

ホントに  
そんなんじゃない  
かと...



そうじゃ  
なくて?



先輩のこと  
もっと  
知りたいとは

せ…

思います…